

長期目標は指導の方向性が分かるようにする

□ 例えば、1年後の子供の姿をイメージして、長期目標を設定します。

個別の指導計画の長期目標は、実態把握で得られた情報を基に、今後の指導の方向性が分かるように設定します。また、目標をより明確化し、確実に達成していくために、一つの目標に対して、複数の要素を盛り込まずに、一つの要素に絞ります。

目標設定のポイント

- ① 目標の優先順位を決める
- ② 基本的なつまずきからアプローチする
- ③ 他の領域や課題への影響を考慮する
- ④ 次につながるような目標を設定する
- ⑤ 日常生活・社会自立を考慮する
- ⑥ 子ども本人及び保護者のニーズを考慮する
- ⑦ 立てた目標について他の人の意見を聞く

【よく用いられる表現】

「～を知る」
 「～を理解する」
 「～を応用する」
 「～を使用する」など

短期目標はできるだけ具体的なものにする

□ 長期目標を達成するために各授業場面でどのように指導していくかを、例えば学期ごとの姿をイメージしながら、具体的な短期目標を設定します。

短期目標は、観察しやすく、目標が達成できたかどうかを客観的に評価できるような表現を心掛けましょう。行動を示す動詞（「～する」「～ができる」「～と書く」等）を使ったり、場面（「朝の会で～」「音楽の時間に～」等）を限定して目標を設定したり、条件（「教師と一緒に～」「声をかけると～」）や基準（「10分間」「80%」等）を設けたりすることで、客観的な評価が可能になります。

目標の設定において、確認してほしいこと

- 目標の主体は子供になっていますか？
 —（例）学級の友達とグループを組んで係活動をしたり、学習をしたりすることができる。
- 目標は子供にとってポジティブな表現になっていますか？
 —「〇〇できない」という表現ではなく、「〇〇できる」といった表現にする。
- 分かりやすい表現になっていますか？
 —（例）2語文程度の定型の言葉を身に付け、先生や友達に言葉を使って自分から意思を伝えることができる。

目標が達成できた場合は、次の目標について確認し、より効果的な指導のために修正すべき点はないかを再検討します。目標が達成できなかった場合は、実態把握、目標、手立てを見直し、改善を図っていきます。目標の達成が不明確な場合は、設定された目標が曖昧であった可能性もあります。その場合には、個々の子供の実態に応じた具体的な目標となるように修正します。

【文献】青森県教育委員会（2018）：青森県教育支援ファイル作成の手引き 改訂版。
 海津亜希子（2017）：個別の指導計画 作成と評価ハンドブック。学研。

よく一緒に読まれているQ

Q23 「個別の指導計画は、複数の教員で作成した方がよいと思いますが、なかなか時間の確保が難しいです…」

Q24 「発達検査や心理検査を実施した経験はありませんが、実態把握はできるのでしょうか？」